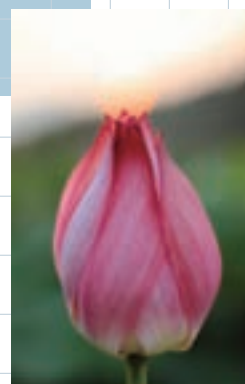
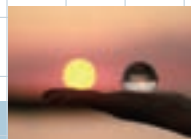
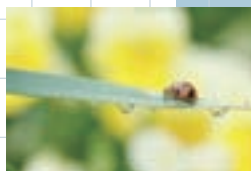
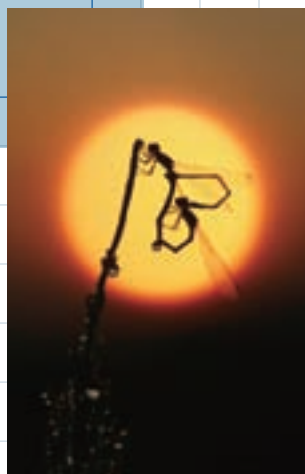


株主通信

第66期
中間報告書



2012年1月 1日



2012年6月30日

CONTENTS

ごあいさつ	2
セグメント別事業の概況	3-4
TAMRON NOW	5-6
タムロンの世界展開	
トピックス	7
CLOSE UP	8
連結財務ハイライト	9-10
連結財務諸表	11
会社情報	12

高倍率ズームの パイオニア

／マクロレンズフォトコンテスト作品募集 13-14



ごあいさつ



代表取締役社長
小野 守男

等、景気後退局面入りの様相となり、米国経済は雇用回復の遅れや個人消費の低迷などで改善ペースが鈍化、中国経済は内需主導で拡大しているものの、拡大テンポは緩やかとなりました。

一方わが国経済は、円高圧力や世界経済減速の影響を受けつつも、復興需要など内需がけん引し、回復基調で推移いたしました。

当社グループ関連市場であるデジタルカメラ市場においては、数量ベースでレンズ一体型タイプは前年同期に比べ約1割減となりましたが、レンズ交換式タイプは前年同期に比べ約4割増となり、交換レンズ市場でも前年同期に比べ約2割増となりました。

このような状況の下、当社グループの当上半期における経営成績は、主力の写真関連事業の売上高が上半期としては過去最高となったことで、売上高は304億32百万円(前年同期比8.2%増)となりましたが、利益面につきまし

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第66期上半期(2012年1月1日～2012年6月30日)の営業概況についてご報告申し上げます。

当上半期における世界経済を概観しますと、欧州経済は債務危機問題の長期化の影響で失業率が高止まりする

ては、ユーロ円相場が前年同期に比べて11円以上も円高となった影響等により、営業利益28億79百万円(前年同期比4.4%減)、経常利益28億36百万円(前年同期比8.8%減)、四半期純利益20億77百万円(前年同期比3.8%減)となりました。

■ 通期見通しについて

当上半期の業績につきましては、各セグメントともに会社計画以上の利益となったこと、為替相場がドル、ユーロ共に会社計画より円安に推移したこと、及び開発費の受領等により、売上、利益ともに期初に発表した予想を上回ることができました。

しかしながら、通期連結業績予想につきましては、欧州を中心とした海外経済の先行きや為替動向が不透明であることから、2012年2月3日発表の通期業績予想を据え置くことといたします。

※下半期の為替レートにつきましては、1米ドル=78円、1ユーロ=97円を前提としております。

■ 配当金について

中間配当金につきましては、当上半期業績や財務状況等を総合的に勘案し、1株につき20円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

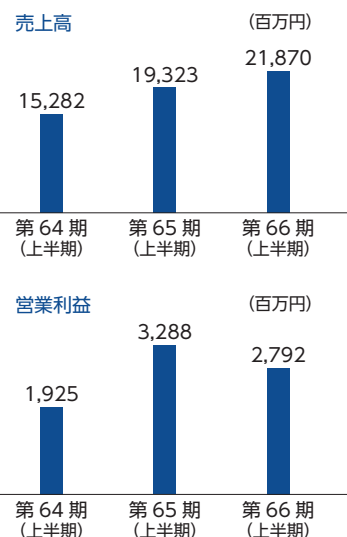
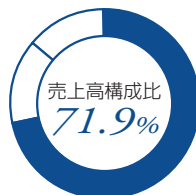
2012年9月



写真関連事業

4月に35mm判フルサイズ対応の大口径標準ズームでは世界初となる手ブレ補正機構を搭載したSP24-70mmF/2.8 VC USD(モデルA007)を発売いたしました。また昨年12月発売のソニーミラーレス一眼カメラシリーズ「Eマウント」用の高倍率ズーム18-200mm VC (モデルB011)が『デジタルカメラグランプリ2012 SUMMER 総合金賞(交換レンズ)』を受賞し、描写力や機能面で高い評価をいただきました。左記製品の他、主力機種である18-270mm VC PZD (モデルB008)に代表される高倍率ズームや望遠ズームを中心に販売数量を伸ばしましたが、ユーロ円相場が前年同期に比べて大幅に円高となったことが利益の足かせとなりました。

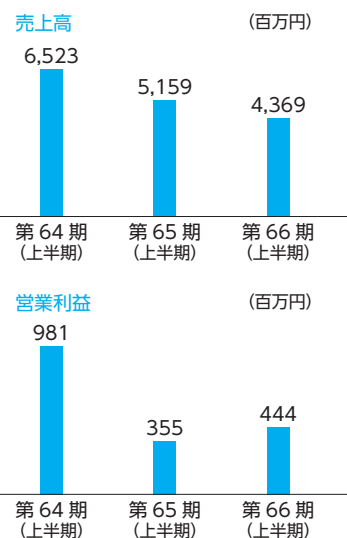
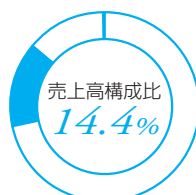
このような結果、写真関連事業の売上高は218億70百万円(前年同期比13.2%増)となり、営業利益は27億92百万円(前年同期比15.1%減)となりました。



レンズ関連事業

レンズ一体型デジタルカメラ市場の縮小もあり、コンパクトデジタルカメラ用レンズの売上が前年同期に比べて減少しましたが、前年同期の減益要因となったOEM製品開発中止に伴う部材の評価損が当期はありませんでした。

このような結果、レンズ関連事業の売上高は43億69百万円(前年同期比15.3%減)、営業利益は4億44百万円(前年同期比24.9%増)となりました。

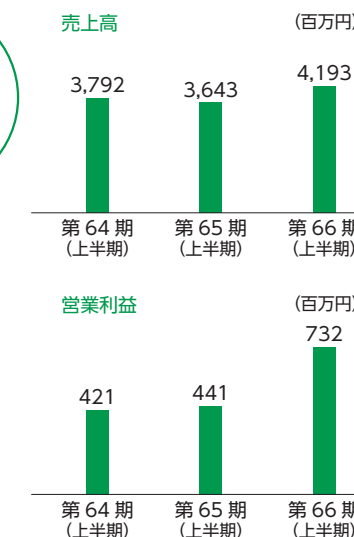
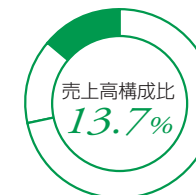


特機関連事業

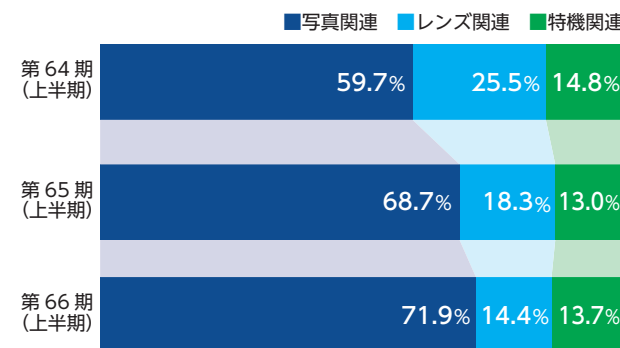
監視カメラの高画質化ニーズが高まるなか、一体型監視カメラ市場の拡大によりビルトインレンズ(一体型カメラ用レンズ)の販売が好調に推移しました。

また、メガピクセル対応レンズ4機種、魚眼レンズ搭載IPカメラ1機種を開発発表いたしました。

このような結果、特機関連事業の売上高は41億93百万円(前年同期比15.1%増)、営業利益は7億32百万円(前年同期比65.8%増)となりました。



連結売上高構成比率の推移



	第64期(上半期)	第65期(上半期)	第66期(上半期)
写真関連	59.7%	68.7%	71.9%
レンズ関連	25.5%	18.3%	14.4%
特機関連	14.8%	13.0%	13.7%

タムロンの世界展開

3月ロシアに販売拠点、5月ベトナムに生産拠点を設立

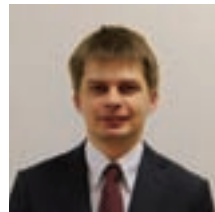
New!

ロシア
販売子会社

当社はこれまで、近年飛躍的な経済成長を遂げているロシアを有力市場と位置づけ、販売代理店を通じた営業活動を行うとともに、2009年には駐在員事務所を設立し、情報収集および市場調査、販売代理店との連携強化を図ってまいりましたが、中長期的にも一眼レフカメラ市場やセキュリティー市場の更なる拡大が見込まれると判断し、本格的な事業展開を図るため2012年3月に販売子会社を設立いたしました。



ロシア販売子会社の設立により、戦略的マーケティングによるタムロンブランドの認知向上、アフターサービス体制強化によるお客様へのサービス向上等を実現し、更なる拡販を図ってまいります。当面は当社の主力製品である一眼レフカメラ用交換レンズの販売が中心となりますが、監視カメラ用レンズ等の販売も開始しております。



社長 ドミトリー・イブチン

フランス
販売子会社



ドイツ
販売子会社



インド
駐在員事務所

香港
海外物流・販売子会社



アメリカ
販売子会社



New!

ベトナム
生産子会社

当社は、現在国内においては青森県に3工場、海外においては中国・仏山市に生産拠点を有しておりますが、現在および将来の需要拡大に対応するため、2012年5月に新たな生産拠点としてベトナムに子会社を設立し、生産体制のより一層の強化を図ることいたしました。

商号 TAMRON OPTICAL (VIETNAM) CO., LTD.

所在地 ベトナム社会主義共和国 ハノイ市 ノイバイ工業団地内

代表者 大塚 康夫

事業内容 精密光学機器等の製造販売

資本金 1,400 万米ドル

出資比率 当社100%

設立年月日 2012年5月4日

稼働開始 2013年7月(予定)

工場規模 土地 約13,400平方メートル
従業員数 約2,000名程度



完成イメージ図

GLOBAL NETWORK

日本
本社
工場:3拠点
営業所:7拠点

中国/上海
販売子会社



中国/仏山
生産子会社



F/2.8 大口径標準ズームレンズに、「手ブレ補正機構」を世界で初めて搭載*。
 待望のフルスペック高画質・大口径標準ズームレンズ、誕生。

「SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD (Model A007)」発売

タムロンは、35mm判フルサイズ対応の大口径標準ズームでは世界初となる、手ブレ補正機構「VC」を搭載し、クラス・トップレベルの高い画質と超音波モーター「USD」を搭載した、大口径標準ズームレンズを発売いたしました。

手ブレ補正機構「VC」の搭載により、低照度下での低速シャッターでも安心して確実な手持ち撮影が行え、大口径ズームの特長をさらに引き出します。レンズには特殊硝材LD (異常低分散) レンズ3枚、ガラスモールド非球面レンズ3枚、複合非球面レンズ1枚、XR (高屈折率) レンズ2枚を採用し、高級レンズにふさわしいクラス・トップレベルの高画質を実現。また、円形絞りの採用により、美しいボケ味を得ることができます。更に、超音波モーター「USD」の採用で、素早いAF駆動とフルタイムマニュアルフォーカスを実現しました。数多くの新技術を搭載しながらも軽量・コンパクト化を図るとともに、レンズ内部に水滴が浸入しにくい簡易防滴構造も採用しています。



* 35mm判フルサイズ対応の一眼レフカメラ用大口径標準ズームレンズにおいて、当社調べ。2012年5月30日現在。

快挙!! EISAアワード 7年連続受賞



A007が『EISA アワード/ European Lens 2012-2013』を受賞し、2006年度より7年連続受賞の快挙を達成いたしました。

■受賞の理由 タムロンは、フルサイズ一眼レフカメラユーザーにとって、非常に魅力的なレンズSP24-70mm F/2.8 Di VC USDを開発しました。この大口径標準ズームレンズは、昨今の高画素カメラの要求に応え、手ブレ補正機能、静かなオートフォーカス駆動、そしてシャープな画像を提供します。簡易防滴構造により、湿気やホコリに強く堅牢な優れたレンズです。プロ仕様で、オートフォーカス、手ブレ補正機能、画質に関してもプロの要求に応えます。プロカメラマンにとっても、趣味で写真を撮っている人にとっても、信頼できるレンズです。

1月 January

製品
特機関連
メガピクセル対応レンズ4機種、魚眼レンズ搭載IPカメラ1機種を開発発表

その他
ロシアに販売子会社を設立

2月 February

製品
写真関連
『18-200mm F/3.5-6.3 Di III VC (モデル B011)』が「デジタルカメラグランプリ2012 SUMMER 総合金賞(交換レンズ)」を受賞

製品
写真関連
『18-200mm F/3.5-6.3 Di III VC (モデル B011)』が「TIPA アワード/ BEST CSC ENTRY LEVEL LENS」賞を受賞

3月 March

製品
写真関連
『SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD (モデル A007)』が「デジタルカメラグランプリ2012 SUMMER 総合金賞(交換レンズ)」を受賞

4月 April

製品
写真関連
『SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD (モデル A007)』が「デジタルカメラグランプリ2012 SUMMER 総合金賞(交換レンズ)」を受賞

5月 May

製品
写真関連
『SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD (モデル A007)』が「デジタルカメラグランプリ2012 SUMMER 総合金賞(交換レンズ)」を受賞

その他
ベトナムに生産子会社を設立

6月 June



JPS 写真展 「生きる」に特別協賛

—東日本大震災から一年—



タムロンは、公益社団法人 日本写真家協会 (Japan Professional Photographers Society 略称JPS)の主催する写真展、「生きる」—東日本大震災から一年—に協賛いたしました。

JPSは東日本大震災の復興支援事業として、被災後一年を期し、被災地が復興していく様子を写真家の眼で記録し、人々が悲しみを乗り越え逞しく生きていく姿を世に伝えていくため、この写真展と写真集の出版を企画しました。

写真展は、震災から一年の節目となる3月11日をはさむ、2012年の3月2日～15日に東京展を、3月27日～4月8日にかけて仙台展を行い、多くの方々にご覧いただくことができました。

今年の秋にはドイツ・ケルン市で開催されるフォトキナ2012*の会場で、当社協賛によるJPS写真展、「生きる」—

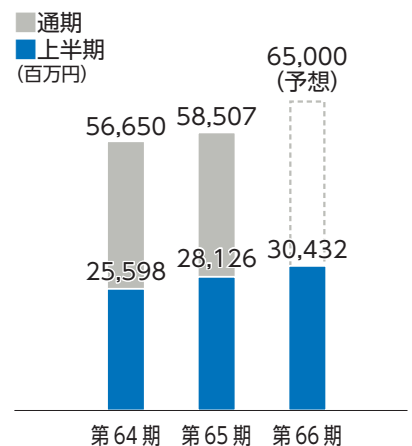
Post-TSUNAMI —が開催されます。

ドイツ・フォトキナに集う世界中のカメラ・写真を愛する人々にも、この写真展を見ていただけるよう、タムロンは支援を行ってまいります。

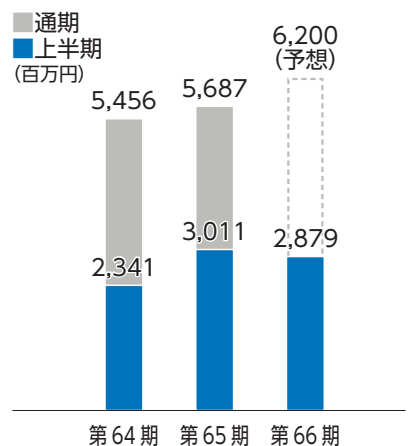
*フォトキナは、ドイツ・ケルン市の「ケルンメッセ」で2年に1度開催される世界最大のカメラ・写真機材をはじめとした映像関連総合見本市。



●売上高 ↑ 8.2% UP



●営業利益 ↓ 4.4% DOWN

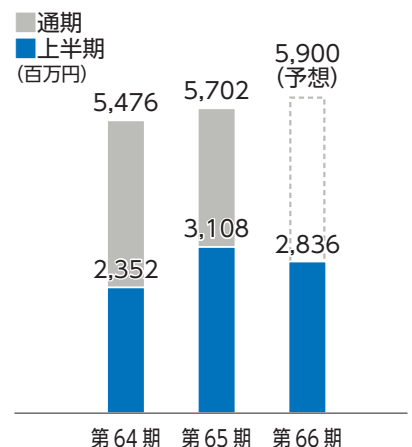


Point

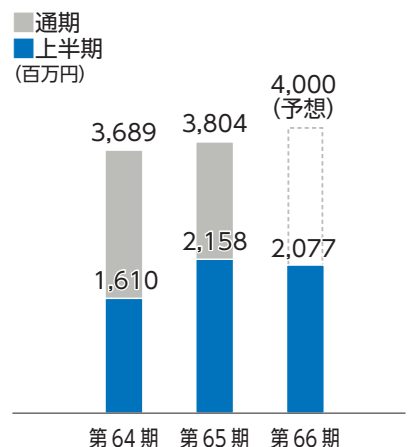
売上高・営業利益

大幅な円高の逆風下でも、写真関連事業好調により増収達成。但しユーロ安の影響が大きく利益は減益。

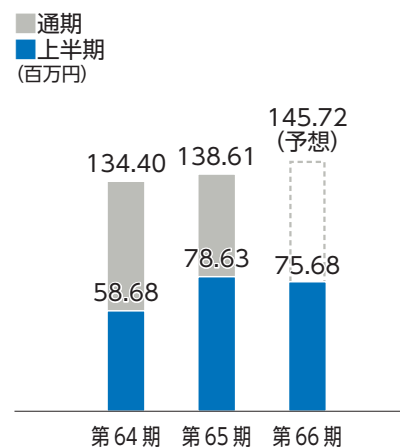
●経常利益 ↓ 8.8% DOWN



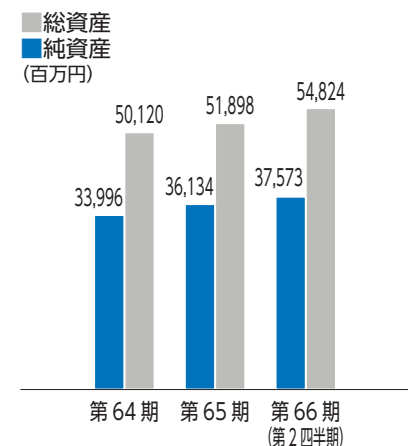
●当期(四半期)純利益 ↓ 3.8% DOWN



●1株当たり当期(四半期)純利益



●総資産／純資産



Point

総資産

- 流動資産 受取手形及び売掛金の増加等により、前期末に比べ25億92百万円増加し、379億23百万円となりました。
- 固定資産 有形固定資産及び投資有価証券の増加等により、前期末に比べ3億34百万円増加し、169億円となりました。

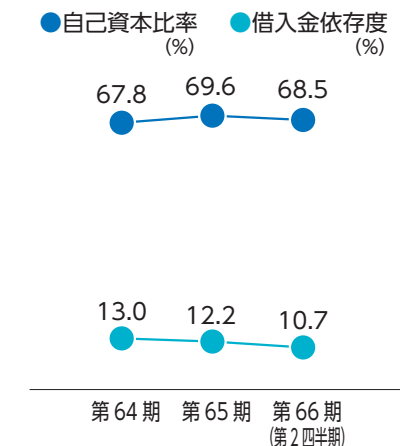
負債

- 流動負債 買掛金の増加等により、前期末に比べ11億28百万円増加し、136億65百万円となりました。
- 固定負債 長期借入金の増加等により、前期末に比べ3億58百万円増加し、35億86百万円となりました。

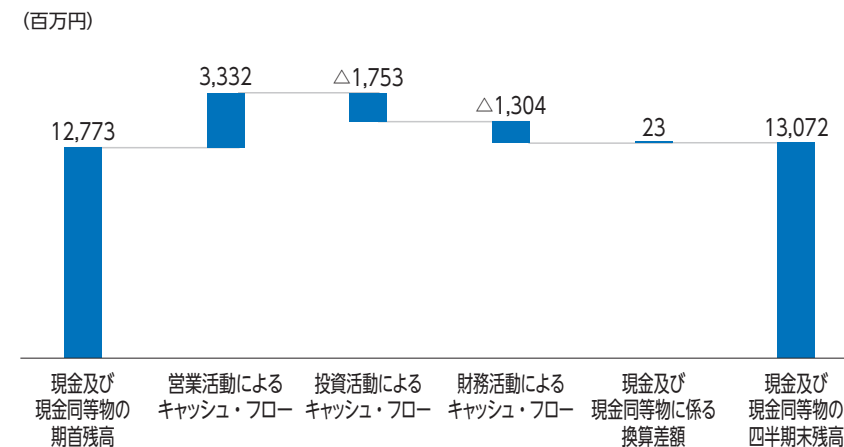
純資産

利益剰余金の増加等により、前期末に比べ14億39百万円増加し、375億73百万円となりました。

●自己資本比率／借入金依存度



●キャッシュ・フロー (第66期)



Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が28億36百万円、減価償却費が14億34百万円となった一方、売上債権の増加額が26億7百万円となったこと等により、33億32百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が15億7百万円となったこと等により、17億53百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入が8億円となった一方、配当金の支払額が8億22百万円、短期借入金の純減額が7億82百万円、長期借入金の返済による支出が4億97百万円となったこと等により、13億4百万円の支出となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2012年6月30日現在)	前期 (2011年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	37,923	35,331
固定資産	16,900	16,566
資産合計	54,824	51,898
負債の部		
流動負債	13,665	12,536
固定負債	3,586	3,227
負債合計	17,251	15,764
純資産の部		
株主資本	40,317	39,063
その他の包括利益累計額	△2,743	△2,928
純資産合計	37,573	36,134
負債純資産合計	54,824	51,898

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2012年1月1日から 2012年6月30日まで)	前第2四半期 (2011年1月1日から 2011年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,332	5,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,753	△2,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,304	△213
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	48
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	299	3,203
現金及び現金同等物の期首残高	12,773	10,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,072	14,200

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2012年1月1日から 2012年6月30日まで)	前第2四半期 (2011年1月1日から 2011年6月30日まで)
売上高	30,432	28,126
売上原価	20,600	18,261
売上総利益	9,832	9,865
販売費及び一般管理費	6,952	6,854
営業利益	2,879	3,011
営業外収益	98	167
営業外費用	141	70
経常利益	2,836	3,108
特別利益	-	8
税金等調整前四半期純利益	2,836	3,116
法人税等	758	957
少数株主損益調整前四半期純利益	2,077	2,158
四半期純利益	2,077	2,158

詳しくは当社IRサイトをご覧ください。



TAMRON IR 検索

会社概要

2012年6月30日現在

商号 株式会社タムロン
 創業 1950年11月1日
 設立 1952年10月27日
 本社 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
 資本金 69億23百万円
 従業員数 2,555名(連結)

役員

2012年6月30日現在

代表取締役社長 小野 守男
 取締役副社長 河野 昭二
 取締役副社長 太田 均
 取締役副社長 白井 義博
 専務取締役 長島 久明
 専務取締役 川合 喬
 専務取締役 新井 宏明
 常務取締役 関 廣司
 常務取締役 志村 忠寛
 取締役 鯨坂 司郎
 取締役 大瀬 英世
 取締役 濱田 憲一
 常勤監査役 益子 幸雄*
 常勤監査役 安田 信一
 監査役 利根 忠博*
 監査役 西本 恭彦*

*社外監査役



タムロンの品質・環境に対する取り組み

品質 ISO9001:2000に基づき、品質保証はもとより、顧客満足度の向上を図る目的で品質管理活動を展開しています。

環境 企業の環境責任の重要性を認識し、環境にやさしい製品づくりなど、ISO14001に基づいて環境負荷の低減に取り組んでいます。

株式の状況

2012年6月30日現在

発行可能株式総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 27,500,000株
 単元株式数 100株
 株主数 5,786名 ※単元未満除く

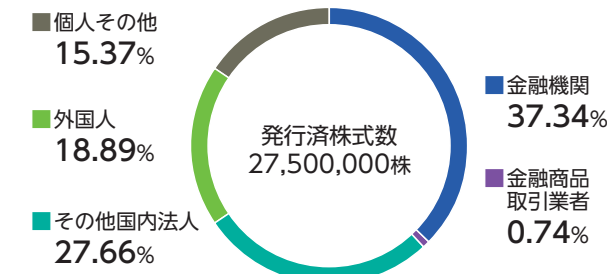
大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社ニューウェル	4,898	17.81
ソニー株式会社	3,129	11.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,120	7.71
株式会社宏友興産	1,529	5.56
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	4.08
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント(常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	971	3.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	644	2.34
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	479	1.74
タムロン協力会社持株会	447	1.62
日本生命保険相互会社	414	1.50

注) ソニー株式会社の所有株式数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。

株式所有者別分布

※単元未満除く



タムロンは高倍率ズームのパイオニア

高倍率ズーム
発売 20周年

● 高倍率ズームの原点「モデル71D」

タムロンが1992年に発売したAF28-200mmのレンズ「モデル71D」は、高倍率ズームながら小型という、当時としては画期的なレンズとして、一般ユーザーにも高倍率ズームというジャンルが浸透するきっかけとなりました。「モデル71D」が発売された当時、一眼レフカメラ用のズームレンズは、28～70mmの標準ズームと望遠ズームの2本を買い揃え、「標準ズームと望遠ズームを使い分ける」というのが常識でした。

「モデル71D」は、その2本のズームレンズを1本にまとめた画期的なズームレンズでした。当時「モデル71D」に付けられたキャッチフレーズは“ズーム一本勝負”。

以来、高倍率ズームのパイオニアとなったタムロンは現在に至るまで、市場の先頭に立って開発・開拓を続けています。



「モデル71D」発売当時のカタログ表紙

● 高倍率ズームレンズとは？

ピントの位置を変えずにズーム(焦点距離)を連続的に可変できるため、広大な風景を収めたり、遠くの被写体を引き寄せるなど、レンズ数本分の機能をもった非常に便利なレンズです。

タムロンの最新の高倍率ズームレンズである、「18-270mm

F/3.5-6.3 Di II VC PZD」(モデルB008)は広角の18mmから望遠の270mmまで「15倍」の幅広い焦点距離をカバーすることができ、下の写真のように、広角では手前から背景までピントの合った視野の広い風景写真の撮影が可能で、ズームをして望遠にすると、被写体を大きく写すことができます。

広角 18mm

15×

望遠 270mm

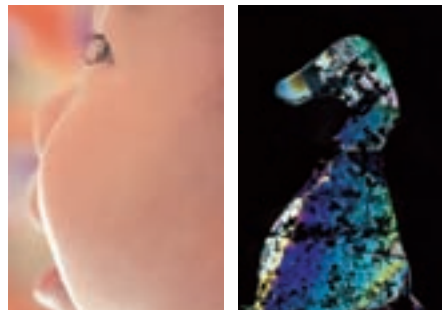
世界最小・最軽量の「15倍」超高倍率ズームレンズ

18-270mm F/3.5-6.3 Di II VC PZD (モデルB008)

株主の皆様も
ぜひご応募ください!

第9回 タムロンマクロレンズ フォトコンテスト 作品募集

- 募集期間 2012年5月1日(火)～10月31日(水)
- 締め切り データ応募：23時59分59秒まで
プリント応募：消印有効



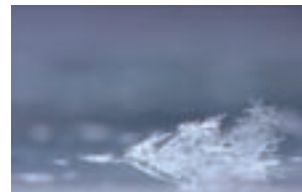
第3回グランプリ受賞作品 第1回グランプリ受賞作品



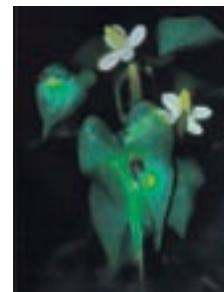
第6回グランプリ受賞作品



第4回グランプリ受賞作品



第8回グランプリ受賞作品



第5回グランプリ受賞作品



第2回グランプリ受賞作品



第7回グランプリ受賞作品

コンテスト概要

ネイチャーの部 植物や昆虫、小動物などのネイチャー写真を対象とします。		ノンジャンルの部 人物・アクセサリー・料理など、ネイチャー写真に限らず広く募集します。	
審査員	写真家 江口 慎一氏	審査員	写真家 川合 麻紀氏
グランプリ(全応募作品の中から1名) 300,000円			
金賞(2名)	100,000円	金賞(2名)	100,000円
銀賞(2名)	50,000円	銀賞(2名)	50,000円
銅賞(4名)	10,000円	銅賞(4名)	10,000円
入選(10名)	記念品	入選(10名)	記念品
タムロン賞(1名)*	50,000円	タムロン賞(1名)*	50,000円
受賞者 39名		賞金合計 1,080,000円	

*タムロン賞・・・タムロンマクロレンズで撮影された作品から選出されます。

詳しくは当社ホームページ上にも
掲載しております。

▶▶▶ http://www.tamron.co.jp/special/macrocon2012/index_outline.html

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(電話照会先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

※ 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告 ※ ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

当社ホームページ <http://www.tamron.co.jp>

お知らせ

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご活用ください。

主な掲載コンテンツ

- 企業情報
- 採用情報
- 製品情報
- IR情報
- お問い合わせ
- CSRへの取り組み

タムロン トップページ

URL <http://www.tamron.co.jp>



タムロン フォトサイト

URL http://www.tamron.co.jp/index_p.html



株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289

<http://www.tamron.co.jp>

■ IR情報関連に関するお問い合わせ

経営企画室

TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282

e-mail: kabushiki@tamron.co.jp

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



本冊子は環境保全のため、植物油インキで印刷しています。